

会 議 録

1 会議名

令和 7 年度 第 6 回中郷区地域協議会

2 議題（公開・非公開の別）

（１）報告（公開）

公の施設の使用料等の見直しについて（資産活用課）

（２）協議（公開）

- ・ 自主的審議事項「中郷区型コミュニティバスのあるべき姿」について
- ・ 新たな自主的審議事項「い～住プロジェクト」について
- ・ その他

3 開催日時

令和 7 年 9 月 22 日（月） 午後 6 時 30 分から午後 8 時まで

4 開催場所

中郷コミュニティプラザ ホール

5 傍聴人の数

報道 0 名 傍聴 0 名

6 非公開の理由

—

7 出席した者（傍聴人を除く。）氏名（敬称略）

- ・ 委 員：竹内会長、陸川副会長、尾崎委員、桐山委員、高橋委員、竹内委員、松岡委員、村越委員、陸川委員、欠席 3 名
- ・ 事 務 局：中郷区総合事務所 高波所長、金井次長、朝日市民生活・福祉グループ長（教育・文化グループ長併任）、桐山地域振興班長、更山地域振興班主事、近藤総務班長、高橋産業建設業務窓口班長、早川税・市民生活班長、野坂福祉班長（以下、グループ長は G 長と表記。）
- ・ 資産活用課：丸山施設経営係長、杉山施設経営係主任

8 発言の内容（要旨）

【桐山班長】

会議の開会を宣言。

上越市地域自治区の設置に関する条例第 8 条第 2 項の規定により、委員の半数以上の出席を確認、会議の成立を報告。

【竹内会長】

本日、地域支え合い事業の一環としてさとまる学校で実施している高齢者サロンに中学生 1 年生が訪問し、レクリエーションや制作活動を行った。制作活動で作ったものが中郷コミュニティプラザのホールに掲示されているので、見ていただきたい。

会議録の確認を陸川委員と尾崎委員に依頼。

初めに、報告事項「公の施設の使用料等の見直しについて」、資産活用課の丸山係長に説明を求める。

【丸山係長】

資料「公共施設等総合管理計画に基づく取組のイメージ」及び「公の施設の使用料の見直しについて」を基に説明。

【高橋委員】

使用料改定や減免基準に絡んでくる場合は、諮問事項として提案いただけるのか。

市外の利用者について、中郷区は妙高市の宿泊施設から近いこともあり、夏合宿として、妙高市の宿泊施設利用者が中郷総合体育館を利用することがある。過去にはそれらの利用が減免されているという話を聞いたことがある。一方で、上越市民が妙高市の施設を利用する場合は、減免の対象とはならない。その辺りを明らかにしていただいた中で、使用料の見直し等を進めていただきたい。

【丸山係長】

使用料の定期的な見直しの場合は報告事項になる。また、施設管理の適正化については、令和 9 年 4 月からの適用に向けて検討を行っており、開館時間等の見直し等があるが、これは諮問事項になる。いずれにしても具体的に説明させていただき、ご意見を頂戴できればと考えている。

また、市外利用者の使用料について、中郷区は立地上、妙高市とのつながりが近いということは承知している。妙高市、糸魚川市を含めた上越地域として考えた時に、それらの市から来る方も配慮するような仕組みについては、課内でも検討している。今回の見直しで対応できるかは未定だが、上越地域というとならえ方も必要があるとの認識で調査・検討していきたい。

【竹内会長】

諮問事項になるか、報告事項になるか分からないが、我々も勉強させていただきながら、情報共有できれば良いと思う。これから少子高齢化が進む中で公共の施設の使い勝手は、住民が安心するまちづくりに繋がっていくと思う。先ほど高橋委員から話のあった妙高市の施設の使用料のように、子どもや保護者に過度な負担がかかることは避けたい。近隣地域全体で子育てをしていくという意識が重要だと思うので、関係課で協議しながら進めていただきたい。

ここで、資産活用課は退席とし、協議に移る。(1) 自主的審議事項「中郷区型コミュニティバスのあるべき姿」について、事務局に資料 No.1「中郷コミュニティバス『さくら号』運行状況」の説明を求める。

【桐山班長】

資料 No.1 を基に説明。

【高橋委員】

利用者からの声などは届いているか。

【桐山班長】

最近は問合せを含め、ほとんどない状況である。運営主体のまちづくり振興会には若干の問合せなどがあるようだが、都度対応で済む内容である。

【高橋委員】

運行開始から半年経つので、次回の地域協議会までに利用者の声や運転手の意見等をまとめて、報告いただきたい。

【尾崎委員】

9月10日（水）に、さくら号の試乗を行った。利用者はいなかったが、運転手の話を伺うことができた。買い物便や病院便となっているが、実際は、美容院などの違う目的である場合も、ルート上であれば、乗降場所について柔軟に対応いただいているようで、利用者に寄り添ったよい対応を確認できた。

【竹内会長】

利用者が固定されているのか、新規の利用者もいるのか、まちづくり振興会から聞き取っていただき、報告いただければと思う。

9月17日（水）の板倉区住民ワークショップでは、板倉区のコミュニティバスの運行について、課題と感じているという意見があった。利用者側の目線と、地域協議会のような客観的な目線では意見が違うこともあるが、尾崎委員から意見のあったように、ある程度ルールがあった上で、利用者に合わせた柔軟な対応ができることも地域で運営していくことの良さだと感じる。今後も、まちづくり振興会と意見交換をしながら進めていきたい。

次に、資料 No. 2 の令和 7 年度の「子どもの い～場所開設事業」進捗及び資料 No. 3 の令和 8 年度 地域独自の予算事業への提案について、事務局に説明を求める。

【更山主事】

資料 No. 2・3 を基に説明。

令和 8 年度 of 取組目標について、令和 7 年度と同様の「利用した子どもの満足度 70%以上」「利用した子どもの保護者からの継続を望む声が 70%以上」と設定してよいか協議していただきたい。

【桐山委員】

取組目標については、事務局説明のとおりで問題ない。自分の子どもも参加させてもらっているが、忙しくて申込みができない方もいると思うので、申込時に「未定」と回答できるのはよいと思う。

アンケートも保護者の手間が増えてしまい、参加率を下げる要因となり得るので、その辺りも考慮しながら事業を進めることができるとよいと思う。

【村越委員】

取組目標については、事務局説明のとおりで問題ない。放課後に家庭内で子どもを見る人がいる家庭や遊ぶ場所がある家庭は利用しないと思うので、実際に居場所を必要としている方に届くような事業ができればよいと考える。

【竹内会長】

昨年度参加者が 0 人だった今の小学 4 年生は、保護者に事業説明を行った際に聞いたところ、近所に遊ぶ場所があるため参加しなかったと話していた。

さとまる学校で実施した「こ食」事業では小学 1 年生の参加が多かった。今年度のい～場所開設事業も、小学 1 年生の参加が多い。見守り体制についても工夫が必要だと感じる。まずは、9 月 25 日（木）の実施状況を報告いただきたい。

【陸川委員】

小学 1 年生の参加が多いが、上の学年の子どもたちが面倒を見ることで、子ども同士の関わりが増えると期待できる。そのため、見守り者は危機管理を徹底し、子どもへは関与しすぎない方がよいと考えている。参加人数を増やすことが目的ではないので、参加した子どもたち同士が交流できる場としたい。

【竹内委員】

子どもの居場所を設けることが目的だと思うので、目標の数値としては、70%でよいと思う。

【松岡委員】

子どもたちが満足して安全に遊べる場所をつくることが目的でよいと思う。

【高橋委員】

保育園バスの夕方の便が終わって保育園に戻るとだいたい午後 5 時半ごろになるが、園庭で子どもと保護者が集まっている様子を目にする。来年、小学校 1 年生になる子へ P R するために、い〜場所開設事業のチラシを配布するのもよいのではないか。

【竹内会長】

い〜場所開設事業を実施しているということを、子育て世帯に周知していくことが大切。保育園児の保護者へのチラシ配布を行うなど工夫していけるとよい。それに伴い、チラシ作成費用が必要であれば、消耗品費を増額して申請を出してもらえればと思う。

【更山主事】

いただいた意見について、今年度の委託先であるまちづくり振興会と相談する。後日、提案書の最終版を委員の皆さんに提示させていただく。また、9 月 25 日（木）の実施報告についても書面にまとめて、次回の地域協議会の際に報告させていただく。

【陸川副会長】

日程調整ができれば、い〜場所開設事業に参加させていただく。参加した子どもたちが楽しく過ごすことができる場所となればよい。また、年に 1 回、保護者も一緒に参加できるかたちで開催するのもよいと思う。

【竹内会長】

まずは、9 月 25 日（木）開催ということで、都合がつく委員はご協力いただければと思う。

続いて、(2) 新たな自主的審議事項「い〜住プロジェクト」の協議に移る。

9 月 17 日（水）に開催された「第 1 回板倉区住民ワークショップ」の視察について振り返りを行う。視察の概要について、事務局に説明を求める。

【桐山班長】

ワークショップを実施する経緯について確認させていただく。地域協議会として「い〜住プロジェクト」を進めていくにあたり、様々な分野からの取組が想定される。協議を行う上で、委員の皆さんの意識合わせや焦点を絞りやすくするため、上越市創造行政研究所が実施しているワークショップを行うことを提案し、皆さんの理解を得たところである。

9月17日（水）に開催された「第1回板倉区住民ワークショップ」では、資料2「令和7年度 板倉区地区まちワークショップ 年間プログラム（予定）」に記載のあるとおり、ワークショップを3回行い、最後に発表する流れになっている。上越創造行政研究所の藤山所長から、資料3「板倉区全体の人口予測と安定化シナリオ」について説明があり、その後、6班に分かれて、資料4「地元関係図」から、それぞれの団体の強み・課題・繋がりについて天気記号を用いて表していく作業が行われた。

【陸川副会長】

板倉区でのワークショップの様子を見て、皆さん活気があって楽しそうに意見交換をしているのが印象的だった。実際にこれから自分たちでもワークショップを行うことを考えると、内容を知らない状態で実施したかったという思いになった。事前に見学をして雰囲気を知るという意味では有意義だったが、ワークショップの様子を見ながら、自分だったらこうしたいなと考えてしまった。その場での思いつきや即興で作業していく方が楽しめるような気がした。

【高橋委員】

中郷区の地元関係図をしっかりと作り込んでからワークショップを始める必要があると感じた。

以前、社会福祉協議会が主体となってワークショップが開催された。その際は、混成チームとして、高齢者や中学生が同じチームで作業を行った。今回の板倉区のワークショップでは、ヤングチームとベテランチームに分かれていたので、実際にどのようにグループ分けを行うとよいか検討が必要。

ワークショップの中で、各団体の繋がりを天気記号の前線で表す手法は新しいと思った。「い〜住プロジェクト」においても、1つの団体に任せるのではなく、団体同士が繋がりながら進めることができるとよい。

今後ワークショップをどのように進めていくか事務局と考えて準備できればよいと思う。

【竹内会長】

高橋委員の意見にあった、令和元年に実施したまちづくりワークショップでは、老人クラブの会員や中学生から参加があった。そこでのグループワークから、バスや雪対策や二本木駅というカテゴリーが出てきた。

中郷区の場合は、委員の皆さんが各団体に所属して活動される中で、地域の良さや課題が何か、頭の中で整理されていると思うので、できるだけ短いスケジュールでワークショップを進めていきたいと思う。それを基に「い〜住プロジェクト」に繋がる活動に向けていくことができるとよい。

板倉区のワークショップでは、山間地のヤングチームがほぼ移住者で構成されていた。移住者の声は、もともとその地域に住んでいた人の声とは違っていた。

移住者がどのような魅力があってその地域に来たのかということ聞き出していけるとよい。

【桐山委員】

地域の中で、ここにしかないものや連携が必要なものはあると思うので、それを整理していくためにワークショップを実施してみることはよいと感じた。グループワークを行う際に、違う意見が出てよいという話があったので、チーム編成を工夫することで、面白い意見が出てくるのではないかと思った。地元関係図にあるような団体のことをよく知らない方もいると思うが、そういう方たちからの意見も面白いのではないかと思った。

【村越委員】

中郷区の場合は、令和4年に全世帯アンケートを実施したため、地域の良さや課題はある程度抽出されている状態の中で、「い〜住プロジェクト」を進めていくことが決まった。改めて地域の良いところを発見し、共有することで「い〜住プロジェクト」に向けて機運が高まると感じた。ヤングチームは、20〜30代の独身の方や保育園の保護者くらいのより若い方がよいと思う。いろいろな世代を集めるとより盛り上がるのではないか。

【竹内会長】

松岡委員は中郷区へ移住されたということで、松岡委員のような移住者の思いを聞きたいと考えている。

まずは、地域協議会として、上越創造行政研究所でのワークショップの手法を学び、中郷区全体で実施する際は、地域協議会がファシリテーターとして進めていくことができるようにしたい。

板倉区では、区内に小学校が2校、中学校が1校ある。ワークショップの中でも小中学校のPTA組織や町内の子ども会活動が衰退しているという意見があった。中郷区の場合は、地域協議会として移住定住の推進を検討する中で、まずは小中学校の存続が鍵になる。先日実施された中郷区小・中学校のコミュニティスクール委員会で、学校の統廃合について意見交換を行った。地域から学校がなくなるということは、移住定住を進めるにあたって痛手となる。そうならないためにも、教育委員会の考え方や学校教育の在り方について、地域協議会として意見を聞き、方向性を確認する必要がある。児童生徒数の減少だけでなく、建物の老朽化等の問題もあるため、地域としてどのように残していくか協議させていただきたい。

小中学校の存続について危機感があるので、事務局に今後の児童生徒数の見通しに関する資料の作成を依頼した。資料No.4「中郷区の児童・生徒数の推移」について、事務局に説明を求める。

【朝日 G 長】

資料 No. 4 を基に説明。

令和 7 年度までは実績値、令和 8 年度以降は市が作成している年齢別の男女人口集計表を基に推計したもの。平成 17 年度から令和 7 年度までに児童・生徒数が 3 分の 1 に減少した。令和 7 年度に生まれた子が小学校へ入学する令和 13 年度には、さらに半減する見込み。

【竹内会長】

この人口減を食い止めるためには、まずは、子育て世代が地域に残ってくれるような策を講じていくことが必要となる。小中学校の存続については、できるだけ早く声を出しながら、打開策を検討していきたいと思っているのでご協力をお願いしたい。

【村越委員】

かなり衝撃的な数字。すぐに何かをしなければならない。

【竹内会長】

この数字を現実として受け止めながら、地域の中でできることは何か、地域協議会の中だけではなく、各団体と協力し、小中学校の保護者とも意見交換をしながら考えていきたいと思う。

「い～住プロジェクト」の今後の協議の進め方について、事務局に資料 No. 5 の説明を求める。

【桐山班長】

資料 No. 5 を基に説明。

上越市創造行政研究所から、より多くの人がワークショップに関わることで、地域全体でプロジェクトに取り組める体制ができるのではないかという意見があった。しかし、中郷区では、委員相互の意識統一や協議を進める上での焦点の絞り込みを図るために、まずは、地域協議会委員のみでまちづくりワークショップを実施し、その結果を地域に広げていければと考えている。

【竹内会長】

まちづくりワークショップについては、10 月 7 日（火）に上越市創造行政研究所の藤山所長と正副会長と事務局で事前協議を行い、全 3 回の日程で進めていく。中郷区版として整理して、現状の把握から始まり、最後には定住を実現するためのアイデア出しを行っていく。日程調整等は藤山所長と検討し、決定していく。ワークショップ終了後、関係団体との意見交換や新しいプロジェクトチームの立ち上げを並行して取り組んでいきたい。

情報発信に向けて、近日中にコンサルタントから見積書が届く予定。令和 8 年度の予算を確保した状態で協議を進めていきたい。地域独自の予算事業の提案期限が間近となっているため、事後報告になってしまうかもしれないことをご承知おきいただきたい。まちづくり振興会やさとまる学校、観光協会の 3 つのホームページをまとめるというのはあくまでもイメージで、定住に向けた新しいホームページを構築していくことになる。そのためにコンサルタントを依頼し、専門家の知識を入れながら持続可能なものにしていきたい。

構築したホームページの管理を地域協議会が行うことはできないので、まちづくり振興会に委託することになるかと思うので、まちづくり振興会と話していきたい。

「い〜住プロジェクト」の進め方について質問・意見はあるか。(なし)

以上で協議を終了とする。

11 月 10 日(月)に大島区・浦川原区・安塚区の地域協議会委員合同研修があり、中郷区地域協議会の会長として講話をすることになっているので、ご承知おきいただきたい。

その他、質問・意見はあるか。

【竹内委員】

さとまるスポーツクラブが、「生涯スポーツ優良団体表彰」として文部科学大臣表彰を受賞することとなった。10 月 16 日(木)に、東京で開催される表彰式へまちづくり振興会の岡田理事長と参列する。

【竹内会長】

以上で、本日の地域協議会は終了とする。

9 問合わせ先

中郷区総合事務所 総務・地域振興グループ

TEL : 0255-74-2411 (内線 165) E-mail : nakago-soumu.g@city.joetsu.lg.jp

10 その他

別添の会議資料もあわせてご覧ください。